

IV 事業概要

1 学芸事業

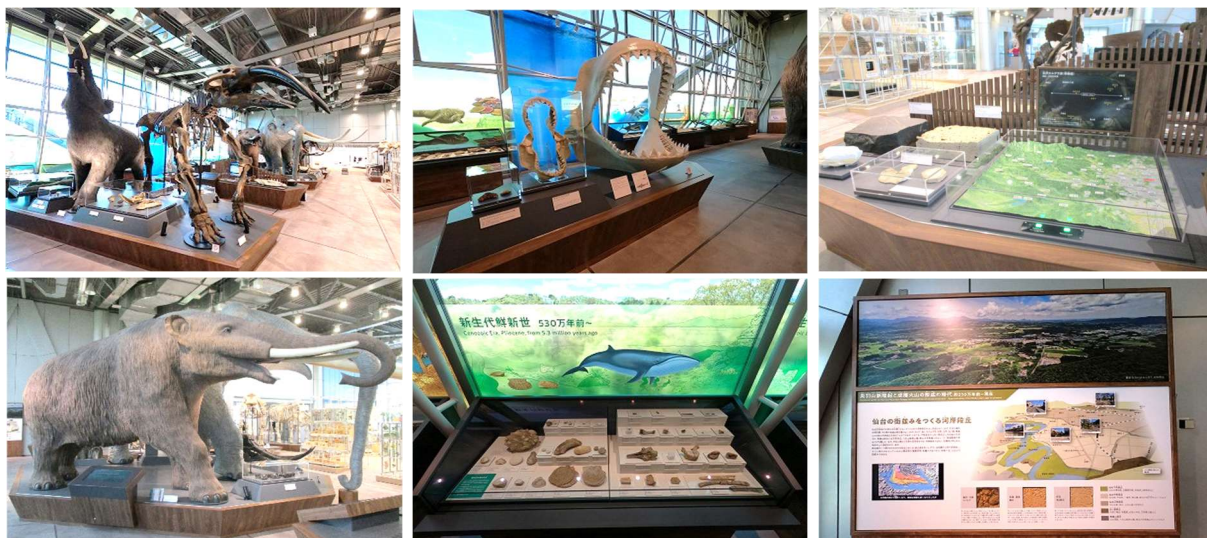
【1 展示関係】

(1) 常設展

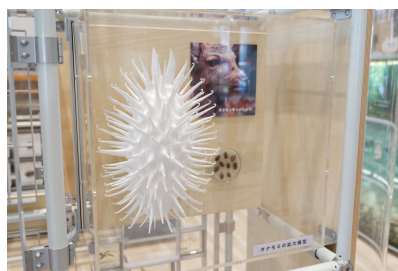
① 自然史系展示「宮城・仙台の自然」

「宮城・仙台の自然」は、「大地の記憶」、「見方の森」、「自然への入口」の3つのエリアで構成されている。

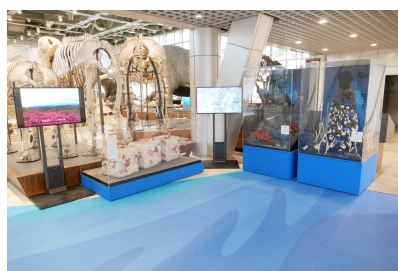
「大地の記憶」では、宮城県内で産出した化石を中心に古生代から新生代まで年代別の展示構成としている。展示室入口には、大型モニターを設置し、仙台の大地の記憶を約5分にまとめたクロニクル映像で、来館者が日本列島の成り立ちから仙台の大地の成り立ちまで分かるように解説している。約500万年前に仙台に生息していたと考えられている「センダイゾウ」をはじめ、9体の象の全身骨格や生体復元模型の迫力のある展示が目玉である。化石は年代別に9台の展示ケースで年代別に展示している。展示ケース内の主な化石としては、南部北上帯から産出した三葉虫の化石、気仙沼から産出したヘリコプリオン（複製）、南三陸町で産出した囊頭類やベレムナイト（複製）、他にもクジラやサメ、アンモナイトなどがある。仙台で産出したサメの歯化石には、大型の古代サメ「ムカシオオホホジロザメ」のものもあり、その顎の復元を新たに展示した。合わせて3種類の魚竜化石（複製）も展示している。中生代前期三畳紀に生息していたウタツギョリュウの他、ホソウラギョリュウ、クダノハマギョリュウがある。「ウタツギョリュウ」は、日本地質学会が定めた宮城県の化石であり、他に県の岩石「スレート」、県の鉱物「篦岳、涌谷の砂金」も展示している。



「見方の森」では、カテゴリー毎に標本や剥製、模型等を展示している。解説の他、観察のきっかけとなる言葉がちりばめられており、自然の事物現象の見方が分かる空間となっている。「果実・種子」は、散布方法で分類して標本を展示している他、オナモミの拡大模型や風散布種子の模型を実際に飛ばすことができる装置を設置している。「巣」では、階段を設けて、高低差を生かして巣を配置しており、階段下には、地面下のアズマモグラなどを展示している。階段上では、鳥の巣を多数配置し、巣にいる雛の様子が分かる映像展示も行っており、空間を生かしたつくりとなっている。「繭・卵」では、メダカの卵がふ化するまでどのように変化しているのか見ることができる映像や、カエルの卵を模型で展示し、発生について解説するなど、小中学生の学習にも生かせる内容となっている。この他、岩石に直接手で触れる、偏光板を回して岩石のつくりをみる、キノコの亚克力標本を手にとって360度観察するなど、実際に触れることができる展示を数多く展開している。また、鳥やキツネなどの動物の鳴き声や、風、川の音など環境音を聞きながら観察をすることができる空間となっている。



「自然への入口」では、宮城・仙台の山地、丘陵地、沿岸部をジオラマで再現したエリアである。宮城・仙台で見られる樹木や植物、物たちの様子をリアルに再現している。各エリアには、ジオラマモニターがあり、それぞれのエリアで生息する動植物の情報を季節毎に見ることができるになっている。床面には、広瀬川の全景を描いた床地図があり、ジオラマとリンクするような配置となっている。河口以降は深海エリアとなっており、深海の生物を模型と映像で紹介している。また、広瀬川の地図に合わせて見方の森に、上流、中流、下流の魚や鳥、動植物の標本や剥製等がある。沿岸部と丘陵地のジオラマの間には、広瀬川を下流から上流に向かって飛んで行くような体験ができる「スカイアドベンチャー」を展開している。



IV 事業概要

1 学芸事業

【1 展示関係】

(1) 常設展

② 科学の探究

科学の探究は「サイエンスユニット」，「物質のなりたち」，「波・音・光」，「電気と磁気」，「運動と力」，「エネルギーの利用」，「物質の性質」の7つのテーマに分かれている。

「サイエンスユニット」では，科学の探究の導入として「体験の手がかり」等にふれる展示エリアである。身の回りにあるものや現象を比較したり，関係性を表すために使われたりする科学の要素（「重さ」「長さ」「面積」「体積」「時間」）を取り上げている。身近な話題をもとに感覚的に分かっていそうなものなどを題材にして，理科の見方・考え方を身につける準備としての場となっている。



サイエンスユニット

「物質のなりたち」は，化学の基礎である周期表や分子構造がどのようなものか，どのようにできているのかなどを映像や体験などを通して分かりやすく解説するエリアになっている。外側に2種類の周期表（実物標本周期表／電子配置周期表），内側をミクロの世界を設置している。



実物標本周期表

「波・音・光」は，波，音，光の性質や身近な現象の原理を体験できる装置を設置している。波が干渉する様子を観察したり，実際にドップラー効果を体験したりできる。その他に，縦波・横波，音の反射，音速，光ファイバーの原理，光の反射などが設置されており，物理学の基礎を学ぶことができる。



音速

「電気と磁気」は，電気と磁気に関する原理・法則を分かりやすく体験することができる装置を設置している。回路にいろいろな抵抗を組み込み，物質によって電流の流れにくさ（抵抗）が違うことが確認できる装置やフレミングの左手の法則が確認できる装置がある。他には，電気を見る，電波の原理，電磁誘導，電子の性質などが設置されており，視覚的に捉えにくいものが分かりやすく体験できる内容となっている。



電気抵抗

「運動と力」は，物体にはたらく力と運動の関係について，実際に物体の運動のようすが観察できる装置を設置している。振り子を使った装置では，長さと周期の関係について学べる装置や大きな振り子が運動するようすから力学的エネルギーについて学ぶことがで



力学的エネルギーの保存の法則

きる。滑車を使った装置では、てこの原理や定滑車と動滑車の違いについて体験できる。空気に関する装置では、常圧と真空状態での物体の落下の仕方や音の伝わり方などを実際に比べることができる。また、コアンダ効果や浮力、パスカルの原理を体験でき、視覚的に捉えにくいものを分かりやすく学ぶことができる。

「エネルギーの利用」は、運動、光、熱エネルギーを電気エネルギーに変換する装置やボイル・シャルルの法則について体験する装置などを設置している。実際に体を動かしながらエネルギーについて学ぶことができる。



ボイル・シャルルの法則

「物質の性質」は、香りファクトリー(エステル合成と香りブレンド)や中和、化学発光、6種類の物質（リチウム（赤）、ナトリウム（黄）、カリウム（紫）、銅（緑）、セシウム（青紫）、バリウム（黄緑））の炎色反応を観察できる化学実験装置などが設置されており、化学変化について学ぶことができる。



炎色反応

※令和6年4月より展示リニューアルオープン

Ⅳ 事業概要

1 学芸事業

【1 展示関係】

(1) 常設展

③ 生活系展示

生活系展示は、生活に関わりの深い科学を次の3つの視点から構成している。

環境アトリエ

環境について多角的にとらえることができる展示である。

100インチマルチビジョンを利用した万華鏡型環境表示システムで、4つのテーマを象徴する映像をみせる「地球環境マルチビジョン」、宮城県内各地で観測している微小粒子状物質(PM2.5)や二酸化窒素濃度分布をリアルタイムで見ることができる「環境をはかる」、化石燃料から循環型のエネルギーシフトをテーマとして燃料電池システムなどを用いた「エネルギーシフト」のほか、源流から河口までの流れを模式的に観察できる「広瀬川と環境」などの展示からなる。

小学校教材(モジュール学習)にも利用できる「川の石」「みやぎの魚」「河原の小石」や蒲生調査レポートなど、郷土の自然について展示している。

生活の科学

私たちの生活が科学と深く結びついていることを確かめていく展示である。「脳の健康度」を判定できる「デュアルタスク体験足踏み計算ゲーム」や形状記憶合金でできた花の模型を咲かせる「形状記憶合金フラワー」など、体験しながら科学に触れることができる。4階のリニューアル工事が始まった昨年の10月からは、4階理工系の展示物と入れ替えを行い、「タッチサウンド」「音を見る」「電磁誘導」などを展示した。



台原气象台
「最新の気象データ」

自動車や機械の動力伝達のしくみを展示した「運動伝達のしくみ」、形状記憶合金や生活用品に使われている素材を紹介する「素材のコーナー」、ドライビングシミュレータは子どもから大人まで人気がある。東北大学メディカル・メガバンク機構との連携展示「ATGC ナノの旅」では、ゲノムに関する知識をタッチパネル式のゲームを交えてわかりやすく解説している。東北大学地震・噴火予知研究観測センターとの連携展示「地震はなぜ起こるのか?」では、自動震源決定システムのモニタなどを展示している。情報通信開発機構と連携した台原气象台では、2022年度より、最新の気象事象の解説を見ることができる「データを見てみよう」を新設し、「台風の動きを学ぼう」、「気象衛星ひまわりリアルタイムWEB」、地球をデジタル立体に表示する「Dagik Earth」の4種類のコンテンツを展示している。

趣味と遊びの科学



ダンブロック迷路

好奇心を呼び起こす科学の遊びを通して、楽しみながら科学とのふれあいができる場である「エイムズの部屋」「逆遠近錯視」「ダンブロック迷路」をはじめ、エントランスホール天井部分に人力飛行機の展示がされており、それに伴い模型や実機を通して飛ぶ仕組みを紹介した「フライトコーナー」に人力飛行機の内部構造等を示した「人力飛行機関連展示」がある。実際に、人が入ることができる「シャボン玉コーナー」、来館者が自分の興味に応じて実験をしたり、科学の不思議さを体験したりできる「チャレンジ・ラボ」などがある。また、ロボットの特性を人間の機能の延長として捉え、機械工学の先端性とその現状を理解するコーナー「ロボットコーナー」や、チャレンジ・ラボ協の3Dプリンターでの製作演示を行っている。

※令和6年10月より展示物のリニューアル工事により閉鎖。

Ⅳ 事業概要

1 学芸事業

【1 展示関係】

(2) チャレンジ・ラボ, 展示解説, サイエンスショー

① チャレンジ・ラボ

来館者がスタッフと交流しながら心に残る実験や科学工作の体験ができる。また、実験を通して科学についての興味や関心を深め、科学のおもしろさ不思議さが体験できる実験コーナーとして、休館日を除き、毎日2回（午前の部 10:30～11:30、午後の部 13:00～14:00）開催してきた。

令和6年度10月からは3階展示室リニューアル工事のため、チャレンジ・ラボのコーナーはエントランスの二画へ場所を移した。実験・工作メニューはエントランスで実施可能な内容を厳選し、その日の団体予約状況や来館者数の予測のもと、日程を定めず日替わりで行う形式をとった。

令和6年度チャレンジ・ラボ実施結果

月	メニュー	日数	参加者数 (人)	月	メニュー	日数	参加者数 (人)
4	リング・リング・グライダー	8	764	10	メルティスタンプ	1	56
	クライミングカード	8	389		バランストンボ	2	92
	ふわふわボール	4	434		空気砲	24	3,530
	錯視カード	5	1,318	11	メルティスタンプ	13	1,257
5	飛行リング	5	442		バランストンボ	5	250
	ラワンのタネ	11	970		空気砲	7	1,621
	ソーマトロープ	6	2,387	12	メルティスタンプ	2	225
	ホログラムカード	4	987		キラキラレインボー	9	989
6	アルソミトラを飛ばそう	8	868		ホログラムカード	12	981
	バランスフィッシュ	7	800	1	メルティスタンプ	5	582
	なきごえコップ	6	1,384		マグネットフィッシング	6	689
	シュワシュワ入浴剤	4	1,381		ホログラムカード	4	820
7	浮沈子	8	862		パズル	5	157
	マジカル水中カード	5	1,754		キラキラレインボー	2	502
	ころりんエッグ	13	4,195	2	空気砲	11	1,904
8	ソーマトロープ	8	3,315		クライミングカード	5	1,039
	ころりんエッグ	9	3,685		バランストンボ	6	206
	ホログラムカード	10	3,237	3	空気砲	8	1,986
	ひかるかざりをつくろう	2	224		バランストンボ	5	676
9	飛行リング	6	1,499		マグネットフィッシング	7	288
	マジカル水中カード	8	1,442		メルティスタンプ	2	426
	紙トンボ	5	798		クライミングカード	2	241
	ベンハムのコマ	5	1,420	合計			53,072



エントランスでのチャレンジ・ラボ実施風景 1



エントランスでのチャレンジ・ラボ実施風景 2

令和2年度からは、家庭でできる科学工作や実験を紹介する動画「おうちでチャレンジ・ラボ」を公開している。動画は、当館で制作したもので、合計24本をYouTubeにて配信し続けている。YouTubeの視聴回数は、令和7年3月末時点で約89,000回である。

② ガイドツアー・ワゴン解説・サイエンスショーinチャレンジ・ラボ

ガイドツアーは、自然科学と私たちをつなぐ「インタープリター（＝翻訳者）」の役割の一つの手段として、従来ピンポイントで行ってきた展示解説に加え、ツアー形式で系統立てた解説を提供しようというものである。科学に対する関心・意欲を深める取組の一つとして位置づけている。令和5～6年度は展示リニューアル工事に伴い中止となった。

ワゴン解説は、実物や実験装置を用いた展示解説で、展示物に関連する資料を見せたり、簡単な実験を行ったりしながら展示のポイントを紹介している。使用する物をワゴンに乗せ、対象とする展示物の近くに配置して行うものである。令和6年度には、リニューアルした展示物「浮力」や「てこの原理」、「光通信」、「電磁誘導」等を対象に実施した。参加者は未就学児や小・中学生、一般を合わせ1,209名となった。

ワゴン解説 実施結果



ワゴン解説 実施風景

展示物名	参加者数 (人)
自動演奏ピアノ	136
タッチサウンド	38
電気抵抗	173
電気と磁気（電磁波）	262
浮力・空気の浮力	272
てこの原理・定滑車と動滑車	151
光通信	72
光の三原色	95
電磁誘導	10
合計	1,209

サイエンスショーinチャレンジ・ラボは、具体的実験による不思議な科学現象を目の当たりに体感させることにより、科学に対する関心・意欲を深める取組の一つとして位置づけている。社会教育指導員やサイエンス・インタープリターが中心となり、土曜日、日曜日、祝日などに、主にチャレンジ・ラボを会場に1回20分程度のショーを実施するもの。未就学児や小学生から年配の方までの幅広い年齢層を対象としている。令和6年度は、参加者の密集を避けるため、より広く客席のとれる市民の理科室で実施した。参加者数等は、以下の通りである。

インタープリターによるサイエンスショー実施結果

月日	時間	タイトル	参加者数 (人)
7月31日(水)	10:30～10:50	低温の科学	70
	14:30～14:50	低温の科学	75
合計			145

③ サイエンスショー

サイエンスショーは、具体の実験による不思議な科学現象を目の当たりに体感させることにより、科学に対する関心・意欲を深める取組の一つとして位置づけている。

社会教育指導員が中心となり、不定期ではあるが土曜日、日曜日、祝日や学校の長期休業中の期間に、3階エントランスや特別展示室を会場として、1回20分程度のショーを実施する。未就学児や小学生から年配の方までの幅広い年齢層を対象としている。令和6年度は、展示リニューアルに伴う会場等調整の都合、実施を見送った。

IV 事業概要

1 学芸事業

【1 展示関係】

(3) 特別展

①特別展概要

1 名称 「恐竜最前線2024～奇跡の恐竜カムイサウルス～」

2 ねらい

- (1) 本展は、奇跡の大発見と称されるカムイサウルスの生きた時代とその世界をテーマに、“東北初公開”となるカムイサウルス全身骨格や同じ時代の化石標本や等身大の生体復元を展示・紹介し、来館者の興味・関心を高める。
- (2) 太古の生物たちの骨格標本、化石、生体復元等を展示、関連するCGシアターの同時展開、発掘の様子や道具紹介などの様々な展示を通して、白亜紀の古生物について基本的な知識を学ぶ。
- (3) 地球生命の繁栄は、地球上の様々な生物との間の微妙なバランスで保たれており、そのバランスこそが生物多様性である。生命の尊さと大切さを知るとともに、それを支える調和ある環境を未来へ引き継ぐことの大切さを普及・啓発する。

3 開催期間

2024年7月20日(土)～同8月25日(日) 開催日数 33日間

休館日 7月22日、29日、8月5日、19日(期間中休館4日間)

4 開催場所

仙台市科学館 2階特別展示室、3階エントランスホール、2階第3実験室

5 主催・共催・後援等

(1) 主 催 仙台市教育委員会

(2) 主 管 仙台市科学館

(3) 協 力 むかわ町穂別博物館、むかわ町経済恐竜ワールド戦略室、北海道大学総合博物館、群馬県立自然史博物館、栃木県立博物館、福島県立博物館、中川町エコミュージアムセンター、長野県古生物学博物館、むかわ地域商社(株)M Dino、株式会社ビーム

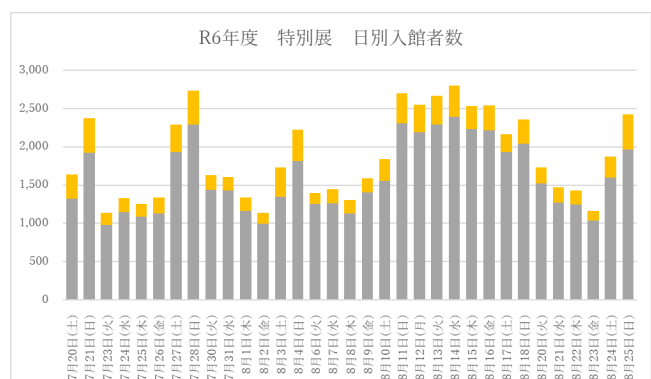
(4) 後 援 宮城県教育委員会、河北新報社、朝日新聞社仙台総局、毎日新聞仙台支局、読売新聞東北総局、産経新聞東北総局、日本経済新聞社仙台支局、NHK仙台放送局、tbc 東北放送、仙台放送、ミヤギテレビ、khb 東日本放送、CAT-V、J:COM 仙台、Date fm、ラジオ 3FM76.2

6 入館料

- ・個人入館料：一般1,000円、高校生600円
小学生・中学生300円
- ・団体入館料：10名以上の利用者は一律100円引きとする。

7 特別展入館者数

61,737人 (うち、未就学児 8,893人)



8 展示内容

(1) 展示・体験内容

①「プロローグ：恐竜最後の時代 白亜紀！？」

恐竜の誕生ヒストリーとともに、恐竜の生きた時代である中生代、そして恐竜最後の時代「白亜紀」について紹介した。同時期に生きた同じ鳥脚類のラプドドンの全身骨格を宮城県初公開した。



②「前期白亜紀のアジア大陸の恐竜～約1億1000万年前頃～」

アジア大陸において多様化した恐竜たちを紹介した。様々な羽毛恐竜にスポットを当て、羽毛を持つティラノサウルス類ディロンや世界最大の羽毛恐竜ユティランヌスの生体復元（全長9m）などを展示した。



③「恐竜と歩こう」

恐竜の歩行やハンティングについてのシルエット動画を上映した。また、カムイサウルスが海に流される様子を再現した撮影スポットを設け、来館者が自由に恐竜と歩いたり記念撮影したりした。



④「後期白亜紀のアジア大陸の恐竜～約7000万年前頃～」

後期白亜紀にアジア大陸に生きた様々な恐竜たちを紹介した。同時代にアジア大陸で生きていたティラノサウルス類であるアリオラムスの全身骨格をはじめ、世界初の発見である、恐竜の喉頭骨の化石レプリカなどを展示した。



⑤「奇跡の恐竜“カムイサウルス”の発見」

カムイサウルスの発見と研究をテーマに、東北初公開となるカムイサウルスの全身骨格を中心に、カムイサウルスの発掘と詳しい研究成果を紹介した。発掘の様子を、当時の用具や写真と共に詳しく解説した。また、同じハドロサウルス類の恐竜であるエドモントサウルスの展示や恐竜CGシアターを通して、その生態や東アジアにおける独自の進化について解説した。



⑥「謎の恐竜テリジノサウルス」

北海道中川町で発見された、新属新種「パラリテリジノサウルス・ジャポニクス（日本の海岸に棲むテリジノサウルスという意）」について、アメリカで発見されたテリジノサウルス類のノスロニクスの全身骨格などを展示し、その全体像を紹介した。

⑦「恐竜の絶滅」

およそ 6600 万年前のユカタン半島での巨大隕石の衝突の影響を受けて、どのような環境変化が恐竜を含む様々な生物を絶滅へと導き、その後の鳥類や哺乳類の大繁栄へ導いたのか。ジオラマやパネル展示で解説した。

⑧エピローグ：～未来へつなげ、恐竜ハンターの夢と希望！～

恐竜ハンターが広大な砂漠や荒地から発見する貴重な恐竜化石は、異常気象や砂漠化などの地球環境問題への対策の手がかりをもつタイムカプセルと考えられている。恐竜研究から生物多様性について考え、「恐竜」の謎を解き明かすことは、私たち人類自身が持続可能な世界を考える上でも重要なテーマとなることを、解説パネルや古生物学者からのメッセージパネルで解説した。



(2) 3階エントランス【展示・体験】

①「恐竜牧場」

エントランス内の恐竜牧場スペースを、恐竜のエアークスチュームを着て自由に散策した。牧場内には、カムイサウルスのバナーやカムイサウルスの大腿骨、段ボール恐竜、アロサウルスの生体復元模型、足跡モデルを展示し、自由に写真撮影ができるスペースとした。

体験人数：未就学児 6,198人 小学生 6,105人 中高生 108人 一般 614人

体験者総数 13,067人



②「恐竜が生きた時代の県内の化石」

東北大学総合学術博物館よりお借りした、気仙沼産の日本最大級のアンモナイト類化石を展示した。また、仙台市科学館で所蔵する中生代の化石標本として、ウタツサウルスについて紹介した。



(3) 2階第4実験室【体験】

① 恐竜ペーパークラフト

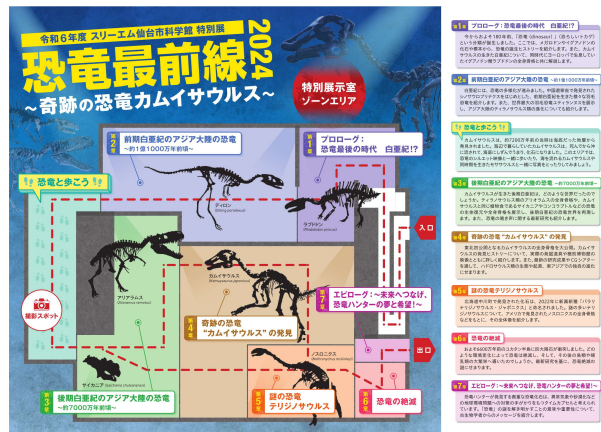
頭にかぶることができる、ティラノサウルス頭骨のペーパークラフトを製作した。作った後は、かぶって写真撮影をしたり、特別展や常設展を観覧したりした。

体験（配付）枚数 15,976枚



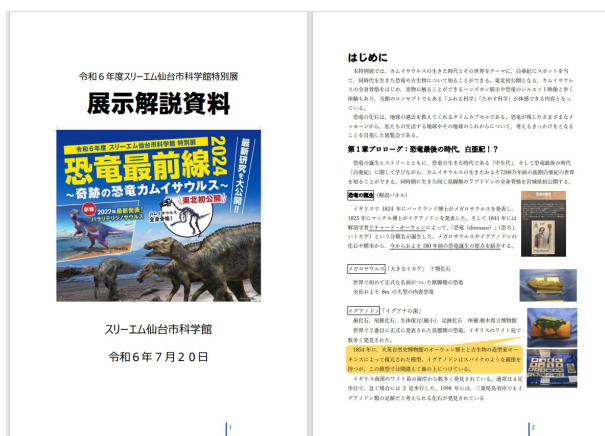
(4) パンフレット・解説資料

① パンフレット



② 解説資料

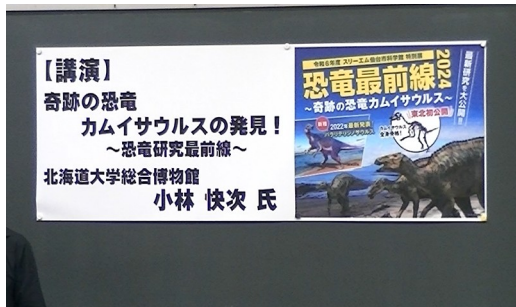
開催期間中は、図 25 のような解説資料をホームページで公開した。標本ひとつひとつについて詳しく説明し、見どころを紹介した。



9 関連イベント

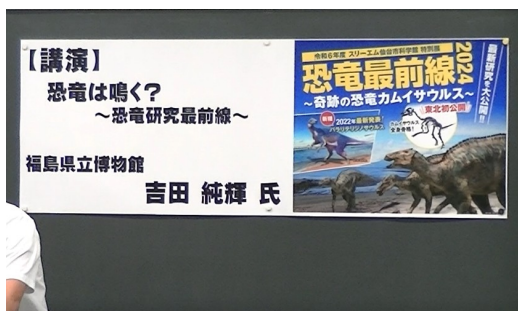
(1) 恐竜最前線 2024 講演会①

講 師 北海道大学総合博物館 小林快次教授 7月27日(土)
演 題 「奇跡の恐竜カムイサウルスの発見!～恐竜研究最前線～」
概 要 カムイサウルスの発見から2019年の新種発表までのヒストリーと、ハドロサウルス類の最新研究について解説していただいた。
参加者 抽選 80名(申込み:436名) 動画中継観覧者 約100名



(2) 恐竜最前線 2024 講演会②

講 師 福島県立博物館 吉田純輝学芸員 8月3日(土)
演 題 「恐竜は鳴く? ～恐竜研究最前線～」
概 要 展示室内で紹介している、ピナコサウルス喉頭骨の発見と恐竜類の発声について、最新研究の内容を解説していただいた。
参加者 70名



(3) 化石レプリカ作り教室

8月9, 10日(金, 土)

会 場 1階市民の理科室
内 容 事前申込み制で、開催日両日ともに2回に分けて実施した。実物化石から製作した型枠に、お湯で温めた熱可塑性プラスチックを詰めて、レプリカを作製した。

参加者 抽選 422名(申込み:544名)



(4) 化石鑑定会 8月11日（日）

会 場：2階第2実験室

講 師：みちのく古生物研究会

内 容：みちのく古生物研究会の方々を講師にお招きし、来館者が持ち込んだ化石を鑑定していただいた。

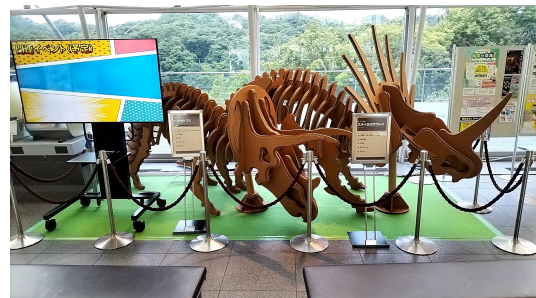
参加者 相談者 10組 （化石見学者含む参加人数：321名）



10 広報について

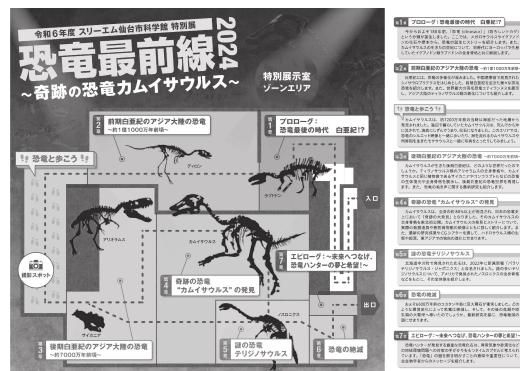
(1) 館内での事前告知

4月25日より入館者にA5版フライヤーを配布した。また、エントランスでは、段ボール恐竜とともに、特別展のPR動画を上映し、宣伝を行った。さらに、エントランスホールに垂れ幕を設置した。



(2) 県内の教育機関や博物館などへの広報

市内小中学校・高等学校と保育園・幼稚園および児童館や県内の小中学校、幼稚園、保育所等児童生徒、園児など、各個人へリーフレットを配布した。また、県内、東北地方の博物館などにもポスターを配布し掲示の依頼をした。



(3) 報道関係への広報

県内のマスメディア等へ後援の依頼を行ったところ、市の広報、県内の報道機関数社から取材があり、集客に大きな効果をもたらした。

- ・ 仙台市ホームページトップページにて広報
- ・ 市政だより …7月1日号掲載
- ・ 河北新報 …事前公開7月19日（金）取材 河北新報ONLINEに紹介記事掲載
…7月27日（土）講演会取材 8月10日 誌面への記事掲載
- ・ ミヤギテレビ …事前公開7月19日（金）取材 夕方のニュースで紹介
…8月21日（水）取材 「OH!バンデス」で紹介
- ・ 仙台放送 …事前公開7月19日（金）取材 夕方のニュースで紹介
- ・ NHK …7月20日（土）取材 夕方のニュース、後日イベント情報でも紹介
- ・ 東日本放送 …7月18日（木）「ナマイキTV」生放送内で恐竜牧場の紹介
…8月14日（水）取材 夕方のニュースで紹介

IV 事業概要

1 学芸事業

【1 展示関係】

(3) 特別展

②特別展アンケート調査

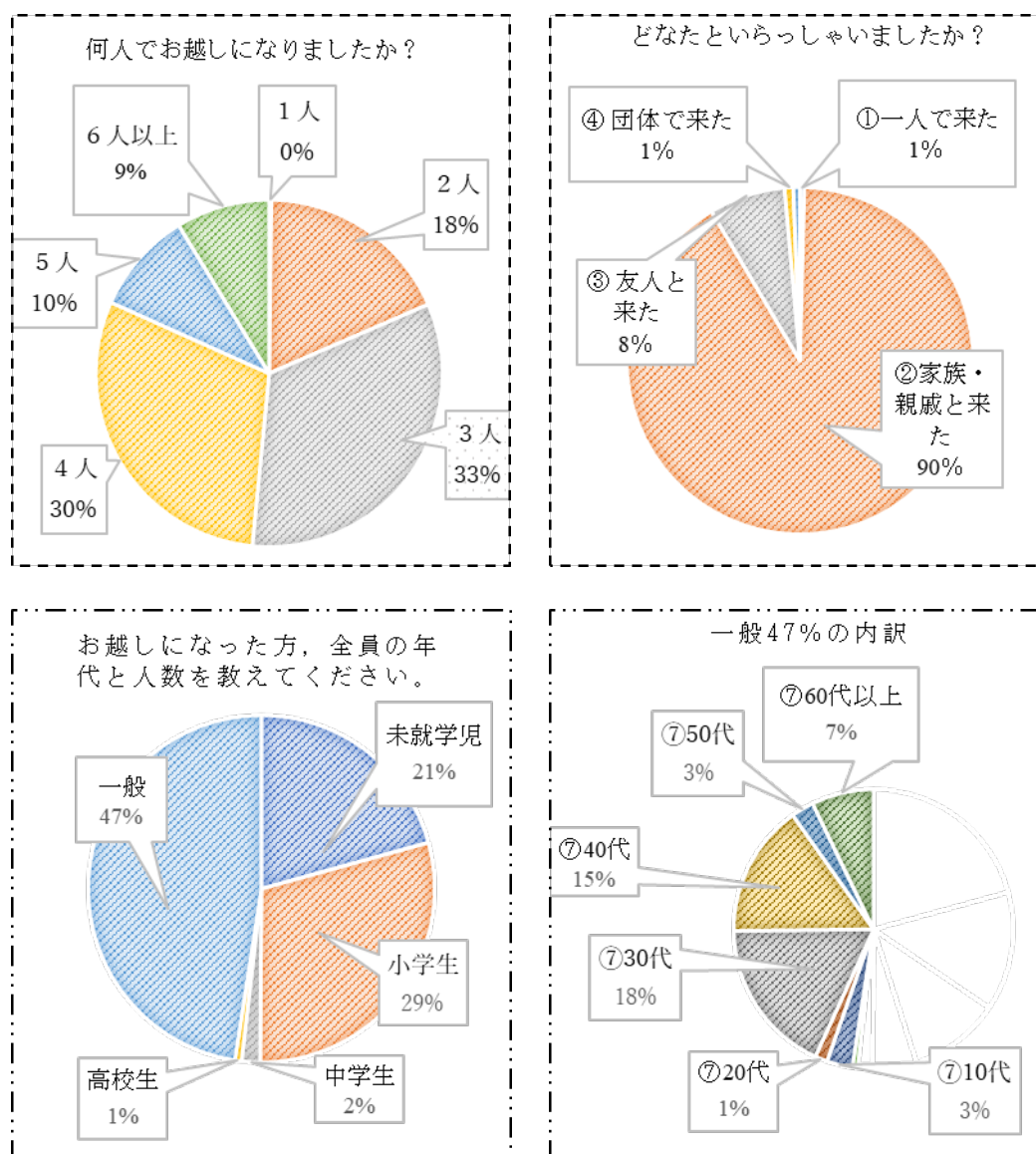
1 特別展来場者アンケートについて

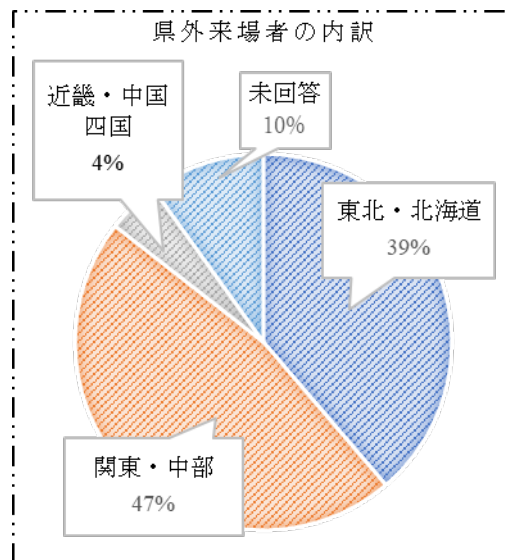
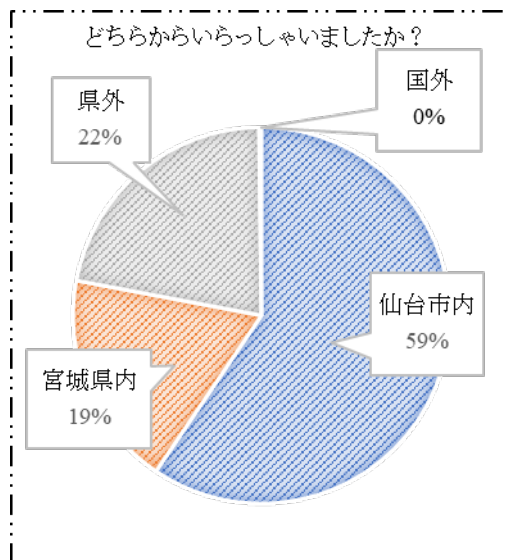
以下の内容でアンケート調査を実施した。

- ・実施日：8月1日（木）～8月11日（日）（ただし、8月5日（月）休館日は除く）
- ・実施者：上記期間中に特別展に来場した方に出口でランダムに声がけをし、協力の承諾を得られた方に実施した。原則として、アンケートへの協力を承諾した1組に対して1枚実施とした。
- ・その他：1日のアンケート回収数を50枚程度とし、実施期間10日間で483組の来館者から回答を得た。

2 アンケートの回答と分析について

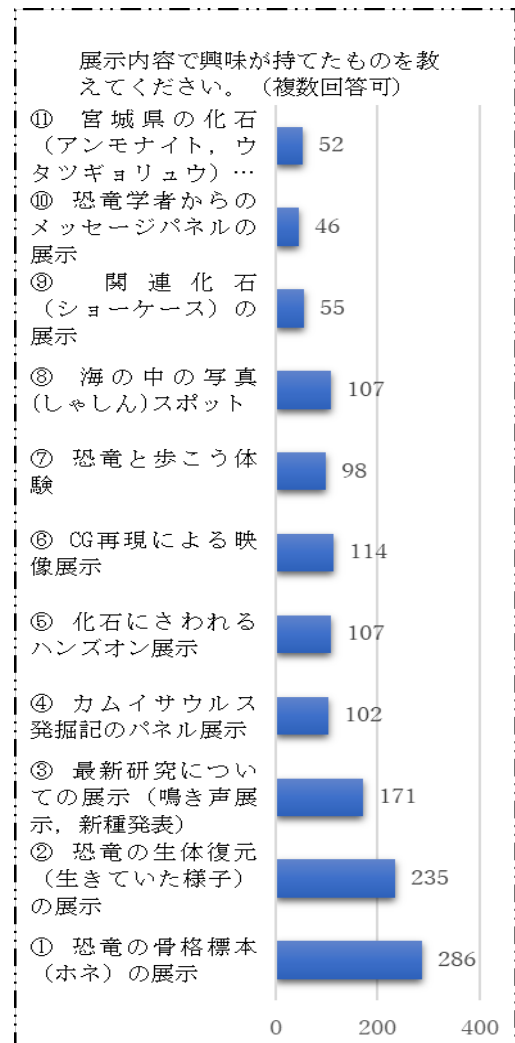
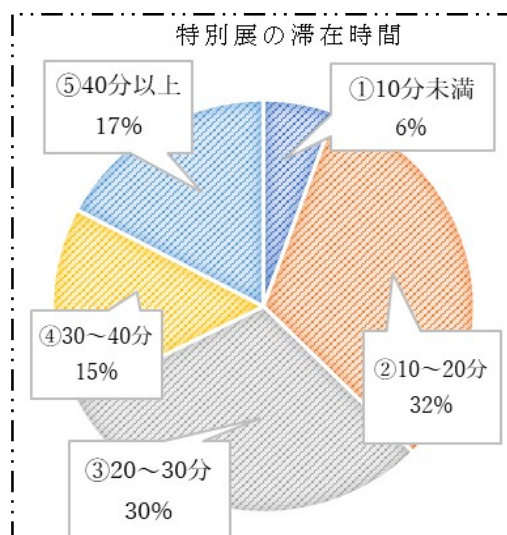
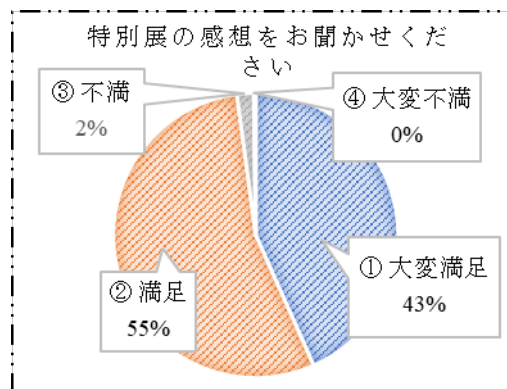
(1) 来場者1組あたりの人数等に関する回答





主な来館者は、小学生や未就学児を含む家族連れであった。来場者のうち、全体の78%が県内からの来館で、そのうち半数以上の59%が仙台市内からの来館であった。今年度は、カムイサウルスという貴重な標本を展示のメインに据えたことで、多くの恐竜ファンが来館した。これにより、県外からの来館者や大人の来館者が増加したと考えられる。さらに、お盆の時期には帰省中に来館した方も多く、全国各地から来館者が集まった。

(2) 展示内容についての回答



展示内容については、来場者のほとんどの方に満足いただけた回答であった。来場者が興味を持った展示は「骨格標本」，「生体復元」，「最新研究についての展示」の3つが，特に回答が多かった。ハンズオン展示やCG映像展示，フォトスポットなどの体験型の展示も，小さい子も楽しめたと，好評価をいただいている。また，エントランスや実験室で行った体験についても，小さい子どもと大人と一緒に楽しめる体験展示として，好意的な意見が多く寄せられた。滞在時間も，40分以上と回答した人数が，昨年よりも7%増加している。この結果より，興味をもって時間をかけて展示を見てもらえたことが伺える。

感想の中には，「とても充実した恐竜展がみられたので良かった。」「日本の恐竜ということで，親近感がわいてよかった。」「体験はやっている方も，見ている方も楽しめた。」という回答があり，恐竜ファンから未就学児まで，幅広い年代の方に楽しんでもらえた様子が伺える。

今回の特別展が企画の趣旨・意図に合致したものとなったと分析する。

Ⅳ 事業概要

1 学芸事業

【1 展示関係】

(4) 小企画展

①「仙台市科学館アーカイブ展②～自然史系～」

期 間 令和6年4月13日（土）～ 6月16日（日）

会 場 仙台市科学館3階 生活系展示室 小企画展コーナー

目 的 仙台市科学館が所蔵する自然史に関する標本資料の中で、令和5年9月末まで4階常設展示室で展示していた標本資料の一部を再展示し、来館者がこれまで展示していた標本資料から学ぶ場を提供することを目的とする。

展示資料

(1) 展示物

- ・金華山の生物
- ・年輪はいくつ
- ・顕微鏡をのぞいてみよう（微化石・水中の微生物）
- ・ふるさとの地形
- ・ふるさとの地質
- ・北上山地の地質
- ・粘菌，変形菌 等

(2) 映像展示

- ・仙台の1億年
- ・旧4階常設展示室内写真スライドショー



図1 全体



図2 粘菌，変形菌



図3 金華山の生物



図4 樹液に集まる昆虫



図5 微化石

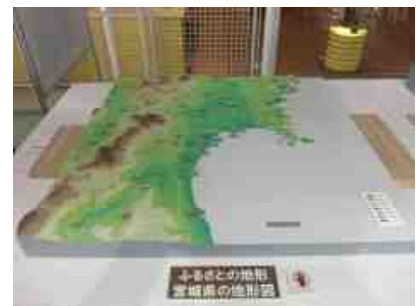


図6 宮城県の地形図

Ⅳ 事業概要

1 学芸事業

【1 展示関係】

(4) 小企画展

② 「自由研究How to 展」

期 間 令和6年6月22日(土)～令和6年8月25日(日)

会 場 仙台市科学館 3階 生活系展示室

ねらい 小・中学生を主な対象とし、自由研究・標本作り・科学工作の進め方やモデルとなる作品を紹介することによって科学技術の普及啓発および学校教育支援を行う。

内 容 自由研究・標本作り・科学工作の進め方、使用する道具、注意する点などを実物やパネルなどを通して紹介や、過去の仙台市児童生徒理科作品展で市長賞や教育長賞をとった優秀な作品の展示を上記期間で開催した。



研究の進め方



昆虫標本製作道具



植物採集と標本の作り方



動画による解説

Ⅳ 事業概要

1 学芸事業

【1 展示関係】

(4) 小企画展

③ 「生きもののふしぎ展」

期 間 令和6年8月31日(土)～9月29日(日)

会 場 仙台市科学館 3階生活系展示室

目 的 旧4階自然史系展示の一部および生きものの生体を解説とともに展示し、からだの構造、色や模様など生きもののふしぎな部分を、体験を通して来館者に関心を持ってもらう。

内 容 【展示物】

解説パネル A3縦(ハレパネ) 22枚程度

メダカの水槽 2つ (ダルマメダカ, ヒメダカ)

カマキリのケース 3つ

(マルムネカレハカマキリ, ハナカマキリ, ヒメハナカマキリ)

スズムシの水槽 1つ

微生物観察用双眼実体顕微鏡 2台 (ボルボックス, ゾウリムシ)

微生物観察用光学顕微鏡 1台 (ミドリムシ)

昆虫パーツ観察用双眼実体顕微鏡 2台 (トンボ複眼, オオミズアオの触角)

昆虫頭部模型 5台

モルフォチョウ飛翔標本 1台

コーカサスオオカブト飛翔標本 1台

サンショウウオの水槽 1つ (ハコネサンショウウオ)

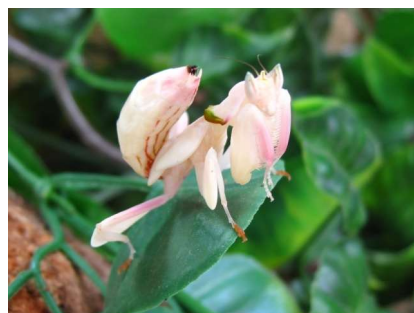
小企画展
生きもののふしぎ展

【開催期間】
令和6年8月31日(土)～
令和6年9月29日(日)

【場所】
スリーエム仙台市科学館
3階 生活系展示室内

【内容】
旧4階自然史系展示の一部
および生き物の生体を展示し
ます。

スリーエム仙台市科学館



Ⅳ 事業概要

1 学芸事業

【1 展示関係】

(4) 小企画展

④ 「昆虫標本展 ～日本の蝶のルーツを探る 高橋雄一コレクション～」

期 間 令和6年12月7日(土)～令和7年1月26日(日)

会 場 仙台市科学館 3階 エントランスホール

目 的 高橋雄一氏の昆虫標本は、詳しい解説と共にまとめられている。解説と標本を合わせて展示することで、市民の昆虫に対する興味・関心を高めることを目的とする。

内 容 日本に生息する蝶を日本型、シベリア型、アムール型、ヒマラヤ型、マレー型の5つの地域に分けて解説とともに展示する。また、北米、南米、アフリカ、ヨーロッパなど、世界各地の特徴を交えてチョウ標本を展示する。

標本リスト

高橋標本 (124 箱)

- | | |
|--------------------------|--------------------------|
| ・「日本の蝶のルーツを探る 1～23」…23 箱 | ・「ヨーロッパの蝶 1～3」…3 箱 |
| ・「トリバネアゲハ 1～5」…5 箱 | ・「モルフォチョウ 1～7」…7 箱 |
| ・「キシタアゲハ 1～5」…5 箱 | ・「世界のモンキチョウ 6～8」…3 箱 |
| ・「世界のモンキチョウ 1～5」…5 箱, | ・「北アメリカの蝶 1～7」(北米大陸)…7 箱 |
| ・「アフリカの蝶 1～6」…6 箱 | ・「東南アジアの蝶 1～12」…12 箱 |
| ・「南アメリカの蝶 1～10」…10 箱 | ・「サハリンで採集した蝶 1～7」…7 箱 |
| ・「中国の蝶 1～9」…9 箱 | ・「モンゴル採集の蝶 1～9」…9 箱 |
| ・「ロシア沿海州採集の蝶 1～8」…8 箱 | |
| ・「ネパールで採集した蝶 1～5」…5 箱 | 合計 124 箱 |

※ 裏表標本、蝶の飛翔標本、昆虫頭部展示(4階常設展示のもの)も合わせて展示する。

